

令和3年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業 地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名

遠別町

(都道府県: 北海道)

1. 当該地域の情報 (令和4年3月現在)

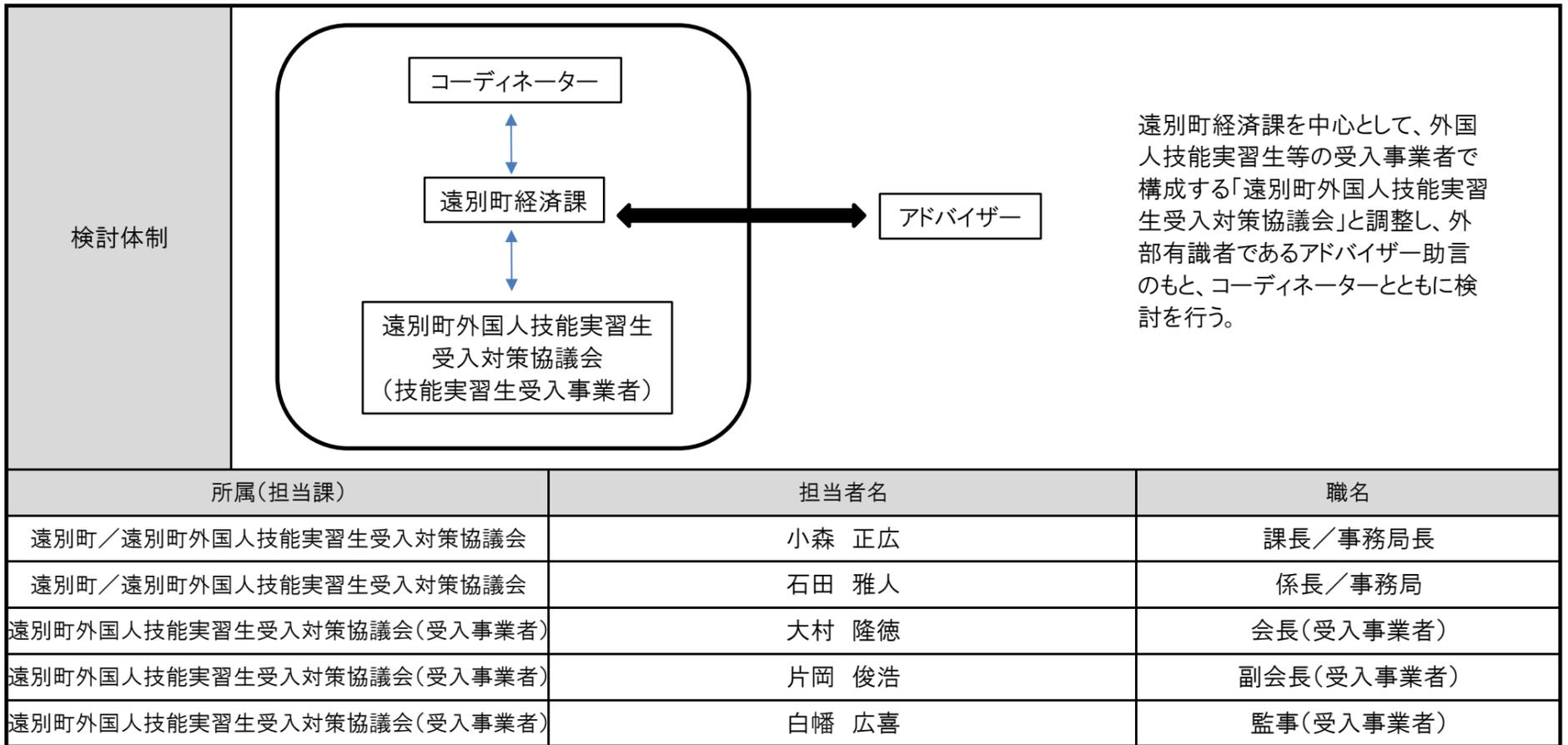
地域の課題	遠別町は北海道の北部にあり、産業は豊富な資源を元に農業、漁業、林業などの一次産業が軸となっている。数年前から水産業を中心に技能実習生等を受け入れており、地域の高齢化等による人手不足に対して良い効果が出ている。事業者が空き家となっていた住宅を技能実習生等用住宅として再活用したり、若い技能実習生等が町のイベントに参加するなど、地域の活性化に繋がっている。 2019年4月に新しい在留資格が新設され、遠別町としてはより多くの外国人を受け入れていく予定であり、外国人に選ばれる町になるためにも外国人の受入や共生に向けてより良い体制を整えていく必要があると考えている。
在住外国人数 外国人比率	在住外国人数 54人 外国人比率 2.20% (遠別町人口 2,450人)
在留外国人の 状況	【主な国籍】 ベトナム 43人、中国 6人、カンボジア 3人、フィリピン 1人、アメリカ 1人 【在留資格】 技能実習生等 46人(技能実習1～3号 21人、特定技能1号 21人、特定活動 4人)、永住者 7人、日本人の配偶者 1人 【滞在年数・在留期間などの状況】 遠別町内に滞在する外国人の大半は技能実習生で3年間の実習が終了すると帰国するが、特定技能に移行する外国人が増えている。(当報告書においては総称して「技能実習生等」としています。)
在住外国人の 日本語教育の現状	遠別町の日本語教室については、技能実習生等を対象として令和2年8月の試行開催を経て9月よりえんべつ日本語教室「かけはし」を開始、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため11月中旬以降は休止としたが、試行開催を含め27回開催し延べ220人が参加した。 多くの技能実習生等が日本語を学びたい意欲があるが日本語レベルには個人差があり、受入事業者も課題であると捉えている。また、参加人数が多いため日本語学習支援者の人材発掘・育成が重要で、協力者を募る取り組みが必要である。 なお、えんべつ日本語教室「かけはし」は、新型コロナウイルス感染症の影響による休止以降、現在まで再開に至っていない状況。

2. 事業の内容

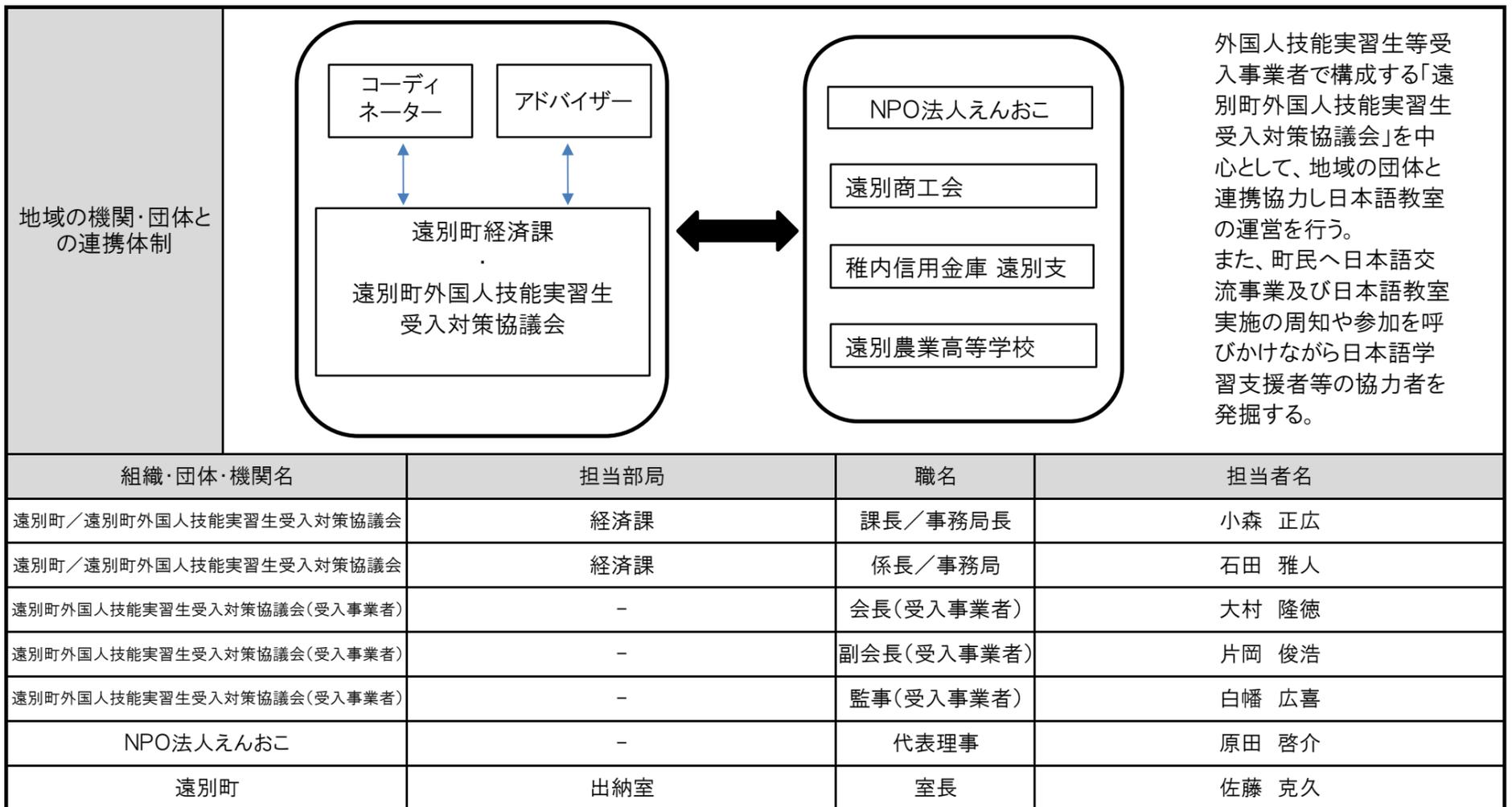
本プログラム取組年数	2年目			
事業の目的	町内に在住する在留外国人は地域に欠かせない存在になっており、今後もより多くの外国人を受け入れていく予定である。令和2年2月には遠別町外国人技能実習生受入対策協議会が設立され、技能実習生等の受入と共生に向けて活動していくこととなった。 前年度日本語教室の開設に至ったが、技能実習生等のニーズに応えより良い内容となるよう改善し、また、町民へ日本語交流事業・日本語教室への見学・参加を呼びかけ、日本語学習支援者の人材発掘、協力者を募る取り組みをし、外国人が住みやすい環境づくりを目的として事業を実施。			
事業の概要	【ニーズ調査】 日本語教室再開に向け技能実習生等や受入事業者へニーズ調査をする計画としていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により協議会等との連携がうまくいかず実施できなかった。 【日本語教室の再開】 技能実習生等を含む関係者の新型コロナワクチン接種完了後の11月に日本語交流事業を開催し、1月下旬から日本語教室を再開する準備まではできたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止とした。 【コロナ禍後を見据えた協力者の発掘】 日本語交流事業の開催にあたり広く町民へ周知し見学者や参加者を募る計画としていたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から運営(事務局・協議会・コーディネーター)だけに留まった。 日本語交流事業の実施内容は町広報誌により町民へ周知をした。 日本語教室の再開にあたっては、町広報誌及び町内双方向通信により町民へ周知し協力者の呼びかけをした。			
事業の対象期間	令和3年4月 ～ 令和4年3月			
前年度の実績 (2年目以降の 団体のみ記載)	①ニーズ調査の実施：対象者全員からの回答があり、ほぼ全員が日本語教室の開催を希望していた。 ②えんべつ日本語教室「かけはし」の開設：試行開催も含め27回開催し延べ220人が参加した。			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	原田 啓介	NPO法人えんおこ	代表理事	日本語教室検討・運営・管理
	佐藤 克久	遠別町役場	出納室長	日本語教室検討・運営・管理
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	井上 洋	(一財)ダイバーシティ研究所	参与	継続 新規(2年目)
	菊池 哲佳	(公財)仙台観光国際協会	国際化推進課交流係長	継続 新規(2年目)
	阿部 仁美	(一社)北海道日本語センター	理事	継続 新規(2年目)

3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

(1) 地域における日本語教育の実施に向けた検討体制



(2) 日本語教室の実施に向けた事業運営体制図



4. 具体的な取組内容

(1)年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
令和2年 4月	・遠別町外国人技能実習生受入対策協議会第1回役員会 (総会打合せ) ・遠別町外国人技能実習生受入対策協議会令和3年度総会	・遠別町外国人技能実習生受入対策協議会第1回役員会 (総会打合せ)	
令和2年 6月	・スタートアッププログラム オンライン説明会		
令和2年 7月	・事業計画の作成	・事業計画打合せ	・事業計画について協議(メール)
令和2年 8月	・事業計画の作成、提出 ・遠別町外国人技能実習生受入対策協議会第2回役員会 (事業再開打合せ)		・事業計画について協議(メール)
令和2年 9月	・コーディネーター情報交換会(オンライン)	・コーディネーター情報交換会 (内容報告)	
令和2年 10月	・遠別町外国人技能実習生受入対策協議会第3回役員会 (日本語交流事業実施内容、日本語教室再開打合せ)	・日本語交流事業打合せ ・日本語教室再開打合せ	・事業進捗状況について(メール)
令和2年 11月	・事業計画の修正、提出 ・日本語交流事業の実施	・日本語交流事業参加 ・日本語教室再開打合せ	
令和2年 12月	・日本語教室運営ボランティアの公募 ・日本語教室開催案内及び参加とりまとめ	・日本語教室再開打合せ	・事業進捗状況について(メール)
令和3年 1月	・スタートアッププログラム実施団体现地調査(オンライン) ・遠別町外国人技能実習生受入対策協議会第4回役員会 (日本語教室の再開中止)		
令和3年 3月	・事業報告の作成、提出	・事業報告打合せ	・事業報告について協議(メール)

(2) 立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称	えんべつ日本語教室「かけはし」						
外国人参加者について	[国籍]ベトナム43名, カンボジア3名 [属性]技能実習生等を対象				参加者数 (内 外国人数)		
開催時間数	総時間 時間			内訳 時間 × 回			
目標	「生活者としての外国人」に係る日本語教育の目的・目標に沿い、地域で暮らす外国人の日常生活における日本語会話能力のレベルアップを図る。						
実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							

【主な活動】

令和2年度に日本語教室を立ち上げできたが新型コロナウイルス感染症防止のため11月途中から休止、今年度1月下旬再開予定で準備を進めたが、新型コロナウイルス感染症の全国的な再拡大により中止した。

教室の立ち上げに係る問題と対応策	新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、オンラインによる開催も検討したが協議会会員(各事業所)の理解と協力が得られなかった。今後の感染状況をふまえ、オンラインでの実施に向けた取組みが必要。
------------------	--

(3) その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
日本語交流事業	11月	日本語教室再開前に交流会を開催、自己紹介や一緒に食事をし玉入れゲームなどで交流を深めることができた。 【実施内容】 11/18(木) 18:00~19:10 参加者 技能実習生等33人、事務局・協議会・コーディネーター等14人
日本語交流事業・日本語教室の町民への周知及び日本語教室運営協力者の公募	12月	コロナ禍後もスムーズに運営ができるよう協力者発掘のため、町民へ日本語交流事業の実施と日本語教室の再開を町広報誌で周知、併せて町広報誌と町内双方向通信(光電話)により日本語教室の運営協力者(ボランティア)を公募した。 1件問い合わせがあり日本語教室再開時に見学を勧めた。
技能実習生等向けお知らせ掲示板	4~3月	年間を通して技能実習生等向けのお知らせ掲示板の情報(町内イベント情報、町内商店の売り出し情報など)を更新した。 (お知らせ掲示板は日本語交流事業・日本語教室会場の生涯学習センターに設置。)

【主な活動】



・日本語交流事業①
食事をしながら技能実習生等と交流。



・日本語交流事業②
玉入れ大会を楽しむ技能実習生等の様子。

**日本語教室「かけはし」
運営協力者(ボランティア)の募集**

「遠別町外国人技能実習生受入対策協議会」では、外国人技能実習生を対象に【やさしい日本語教室】を開設しています。
新型コロナの影響によりしばらくの間休止していましたが、1月からの再開に向け運営協力者(ボランティア)を募集いたします。
教室の講師や助手、運営のお手伝いをしていただけの方、活動に興味をお持ちの方は事務局までお気軽にお問い合わせください。

○日本語教室内容(生徒はおもにベトナム人の方々)
週に2回、1回1時間程度 平日夜又は土曜日の日中開催

事務局: 役場 経済課 商工観光係 電話7-2146(経済課直通)

・町内双方向通信(光電話・音声付き)画面
町民へ運営協力者(ボランティア)を公募。

5. 今年度事業全体について

進捗状況	・2年目に入り新型コロナウイルス感染症対策のため、日本語教室の再開に至ることが出来ませんでした。 1月の再開に向け準備を進めたが、全国的な感染再拡大を受け中止としました。 また、同理由により地元関係団体はもとより都市部との往来が困難であるためアドバイザーとの連携も難しい状況でした。
事業推進にあたり問題点と対応策	・協議会会員(技能実習生等受入事業者)は年齢層が高いため、オンラインによる実施に抵抗があった。
成果	・2年目は日本語交流事業の開催(1回)のみに留まった。
地域の関係者との連携による効果	・お知らせ掲示板の情報(町内商店の売り出しチラシ)の更新を、設置場所の管理者である遠別商工会に依頼し協力を得ている。
コーディネーターの主な活動	①日本語交流事業への参加 ②日本語教室再開にあたり日程調整、教室の内容、教材の検討
アドバイザーの主な助言	・ボランティアなどの協力者を単に募集するだけでなく、交流会等へ町民の参加を呼びかけ一緒に活動することにより協力者を作る。 (町民のみなさんに、日本語を勉強する手伝いがしたい、私も何かできないか、という気持ちになってもらうことが大切。) ・地域に取組み内容を伝えることにより理解を得て地域ぐるみの取組みに広げる。 ・技能実習生等が地域社会とつながっているための仕掛けの検討。 ・コロナ禍以降を見据えた体制作りが必要。
今後の課題	・日本語教室を継続していくために学習支援者や協力者の発掘育成への取組みが必要である。 ・地域に日本語教室及び交流事業の存在を幅広く知ってもらう取組みが必要である。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で日本語教室の開催が出来ていないが、今後もこの状況が継続することも想定されるため、オンラインでの実施への取組みが必要。
今後の予定	・学習者の声を尊重した日本語教室の内容とするため、学習者へのアンケート調査をする。 ・日本語教室の公開授業やお知らせ掲示板の周知を行い、地域内へ活動内容をPRする。 ・日本語交流事業において、地域と技能実習生等をつなげるため広く町民に参加を呼びかけ実施する。 ・オンラインによる日本語教室の実施に向けた取組み。 ・令和2年度中は日本語教室の実施には至らなかったが、一定の自立はできたため今年度をもって文化庁事業の活用を終了した。

本件担当 : 遠別町役場 経済課 商工観光係